



## 平成28年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成27年11月5日  
上場取引所 東

上場会社名 株式会社ストライダーズ  
コード番号 9816 URL <http://www.striders.co.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 早川 良一  
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 兼 CFO (氏名) 若原 義之 TEL 03 (5777) 1891  
四半期報告書提出予定日 平成27年11月6日 配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成28年3月期第2四半期の連結業績（平成27年4月1日～平成27年9月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第2四半期	2,353	45.3	143	571.9	125	531.9	77	470.7
27年3月期第2四半期	1,619	32.2	21	—	19	—	13	△77.9

(注) 包括利益 28年3月期第2四半期 30百万円 (228.8%) 27年3月期第2四半期 9百万円 (△59.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第2四半期	0.87	0.87
27年3月期第2四半期	0.16	0.16

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
28年3月期第2四半期	3,495	1,584	45.1	17.79
27年3月期	3,502	1,577	44.1	17.40

(参考) 自己資本 28年3月期第2四半期 1,577百万円 27年3月期 1,543百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
28年3月期	—	0.00	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 平成28年3月期の連結業績予想（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,500	23.5	280	220.7	270	224.5	178	143.2	2.00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	28年3月期2Q	88,730,896株	27年3月期	88,730,896株
② 期末自己株式数	28年3月期2Q	26,098株	27年3月期	25,598株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	28年3月期2Q	88,705,024株	27年3月期2Q	83,632,540株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。ただし、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1.当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更	4
(3) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(4) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11
(重要な後発事象)	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、経済政策・金融政策等を背景に企業収益の向上や雇用環境の改善など緩やかながらも回復基調にあるものの、中国をはじめとする新興国の減速感が強まっており、国内景気への影響が懸念されるなど先行きは不透明な状況が続いております。

このような経済状況下、当社グループ（当社及び連結子会社）は、それぞれの事業において新規顧客獲得に向けた営業活動や経費削減等に取り組むとともに、新たな収益源の獲得に向けた事業投資等についても検討してまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高2,353百万円（前年同四半期比45.3%増）、営業利益143百万円（前年同四半期比571.9%増）、経常利益125百万円（前年同四半期比531.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益77百万円（前年同四半期比470.7%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### ① IT関連事業

IT関連事業につきましては、モバイルリンク株式会社において、車載端末システムの新機種を開発し、既存顧客を中心にシステム入替を提案する営業活動を行ってまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間のIT関連事業の売上高は137百万円（前年同四半期比47.2%増）、営業損失は6百万円（前年同四半期は営業損失10百万円）となりました。

#### ② 企業再生再編事業

企業再生再編事業につきましては、M&Aグローバル・パートナーズ株式会社において、資産売却等のリストラによる収支改善や資金調達支援、M&Aに関するコンサルティング業務等に取り組んでまいりましたが、当第2四半期連結累計期間中に案件を受注することができませんでした。

この結果、売上は計上されておらず、営業損失0百万円となりました。なお、前年同四半期の売上高は0百万円、営業利益0百万円でありました。

#### ③ 不動産賃貸管理事業

不動産賃貸管理事業につきましては、新設住宅着工戸数は消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動減の影響が薄れ、持ち直しの傾向にあります。また、都市部においても、賃貸住宅の供給は引き続き高い水準で維持しております。このような状況下において、株式会社トラストアドバイザーズは、ワンルームやコンパクトタイプの物件管理に特化し、入居率向上や徹底した滞納管理、賃料水準の維持を図るとともに、ワンルームの売買にも取り組んでまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の不動産賃貸管理事業の売上高は1,331百万円（前年同四半期比50.6%増）、営業利益は92百万円（前年同四半期比122.6%増）となりました。

#### ④ 食品関連事業

食品関連事業につきましては、有限会社増田製麺において、神奈川エリアにおける横浜家系ラーメンを中心とした中華麺等の製造販売を行っております。大口顧客の自家製麺化等による取扱高は一旦減少したものの、既存顧客の店舗拡大により取扱高は徐々に回復しております。また、業務の効率化を図り、コスト削減等にも努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の食品関連事業の売上高は77百万円（前年同四半期比0.4%減）、営業利益は0百万円（前年同四半期は営業損失0百万円）となりました。

#### ⑤ ホテル関連事業

ホテル関連事業につきましては、現在、成田空港エリアで成田ゲートウェイホテル、倉敷エリアで倉敷ロイヤルアートホテルを運営しております。成田ゲートウェイホテルは、政府の観光立国推進に向けた各種施策や円安の影響で訪日外国人は増加し、宿泊単価、稼働率共に高水準を維持いたしました。また、倉敷ロイヤルアートホテルは、地元の高校生とコラボした「蔵と名画」ランチなどの販促活動や、経費削減等に取り組んでまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間のホテル関連事業の売上高は806百万円（前年同四半期比42.9%増）、営業利益145百万円（前年同四半期比112.8%増）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## ① 資産、負債及び純資産の状況

## (資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は1,513百万円となり、前連結会計年度末に比べ97百万円減少いたしました。これは主にたな卸資産が79百万円増加したものの、現金及び預金が300百万円減少したこと等によるものであります。固定資産は1,982百万円となり、前連結会計年度末に比べ91百万円増加いたしました。これは主に長期貸付金が117百万円、関係会社株式が63百万円増加したものの、投資有価証券が48百万円減少したこと等によるものであります。

この結果、総資産は3,495百万円となり、前連結会計年度末に比べ6百万円減少いたしました。

## (負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は665百万円となり、前連結会計年度末に比べ18百万円増加いたしました。これは主に1年内返済予定の長期借入金が19百万円増加したこと等によるものであります。固定負債は1,246百万円となり、前連結会計年度末に比べ32百万円減少いたしました。これは主に繰延税金負債が20百万円減少したこと等によるものであります。

この結果、負債合計は1,911百万円となり、前連結会計年度末に比べ13百万円減少いたしました。

## (純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は1,584百万円となり、前連結会計年度末に比べ6百万円増加いたしました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益77百万円の計上、その他有価証券評価差額金が45百万円、非支配株主持分が27百万円減少したこと等によるものであります。

この結果、自己資本比率は45.1%（前連結会計年度末は44.1%）となりました。

## ② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は980百万円となり、前連結会計年度末に比べ303百万円減少しました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は0百万円（前年同期は63百万円の獲得）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益110百万円の計上、たな卸資産の増加79百万円によるものであります。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は287百万円（前年同期は824百万円の使用）となりました。これは主に、貸付けによる支出が167百万円、関係会社株式の取得による支出が69百万円あったことによるものであります。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は16百万円（前年同期は548百万円の獲得）となりました。これは主に、長期借入れによる収入が80百万円あったものの、長期借入金の返済による支出が67百万円、連結範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出が24百万円あったことによるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、最近の業績動向等を踏まえ、平成27年5月14日に公表いたしました通期の連結業績予想を変更しております。

詳細につきましては、本日（平成27年11月5日）公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

## (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

## (2) 連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更

当第2四半期連結会計期間より、新光行動聯網股份有限公司は重要性が増したため、持分法適用の範囲に含めております。

## (3) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

## (4) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。）、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。）及び「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

当第2四半期連結累計期間の四半期連結キャッシュ・フロー計算書においては、連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得又は売却に係るキャッシュ・フローについては、「財務活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載し、連結範囲の変動を伴う子会社株式の取得関連費用もしくは連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得又は売却に関連して生じた費用に係るキャッシュ・フローは、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載しております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

なお、当第2四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,386,981	1,086,857
売掛金(純額)	113,116	138,521
有価証券	-	46,399
たな卸資産	47,350	126,506
繰延税金資産	27,278	27,278
その他	36,840	88,124
流動資産合計	1,611,566	1,513,687
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	904,851	885,496
土地	348,663	348,663
その他(純額)	25,422	22,477
有形固定資産合計	1,278,937	1,256,637
無形固定資産		
のれん	349,847	328,994
その他	5,570	9,832
無形固定資産合計	355,417	338,827
投資その他の資産		
投資有価証券	132,686	84,331
関係会社株式	56,955	120,731
長期貸付金	25,481	143,445
その他	41,170	38,133
投資その他の資産合計	256,293	386,642
固定資産合計	1,890,648	1,982,107
資産合計	3,502,215	3,495,795
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	63,894	65,318
1年内返済予定の長期借入金	102,892	122,596
未払金	100,217	73,307
未払法人税等	23,741	36,566
賞与引当金	17,824	22,669
預り金	101,021	93,271
金利スワップ	35,645	36,234
その他	201,205	215,129
流動負債合計	646,440	665,094
固定負債		
長期借入金	810,449	803,153
退職給付に係る負債	7,761	8,364
長期預り敷金保証金	242,423	237,330
繰延税金負債	217,812	197,571
固定負債合計	1,278,446	1,246,419
負債合計	1,924,887	1,911,513

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,578,674	1,578,674
資本剰余金	264,268	267,219
利益剰余金	△296,124	△218,589
自己株式	△2,976	△3,020
株主資本合計	1,543,841	1,624,283
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	35,077	△10,308
繰延ヘッジ損益	△35,645	△36,234
その他の包括利益累計額合計	△567	△46,542
新株予約権	5,994	5,994
非支配株主持分	28,060	546
純資産合計	1,577,328	1,584,281
負債純資産合計	3,502,215	3,495,795

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	1,619,967	2,353,440
売上原価	892,891	1,350,257
売上総利益	727,076	1,003,182
販売費及び一般管理費	705,698	859,552
営業利益	21,377	143,629
営業外収益		
受取利息	132	5,173
受取配当金	179	2,229
有価証券売却益	1,047	-
受取手数料	5,174	6,714
受取事務手数料	2,100	2,100
その他	3,866	8,738
営業外収益合計	12,499	24,956
営業外費用		
支払利息	8,093	10,001
有価証券評価損	-	6,194
持分法による投資損失	-	5,354
為替差損	-	16,990
租税公課	2,939	-
その他	3,017	4,763
営業外費用合計	14,050	43,303
経常利益	19,826	125,282
特別利益		
その他	363	-
特別利益合計	363	-
特別損失		
投資有価証券売却損	-	1,087
投資有価証券評価損	-	3,611
解約違約金	-	9,965
特別損失合計	-	14,664
税金等調整前四半期純利益	20,190	110,617
法人税、住民税及び事業税	11,327	36,594
法人税等調整額	△1,486	△2,950
法人税等合計	9,840	33,644
四半期純利益	10,349	76,973
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△3,237	△561
親会社株主に帰属する四半期純利益	13,586	77,534

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
四半期純利益	10,349	76,973
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	28,569	△45,385
繰延ヘッジ損益	△29,491	△589
その他の包括利益合計	△921	△45,974
四半期包括利益	9,427	30,998
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	12,664	31,560
非支配株主に係る四半期包括利益	△3,237	△561

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	20,190	110,617
減価償却費	20,541	28,884
のれん償却額	18,683	20,852
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△457	295
受取利息及び受取配当金	△311	△7,402
支払利息	8,093	10,001
為替差損益(△は益)	—	16,990
持分法による投資損益(△は益)	—	5,354
有価証券売却損益(△は益)	△1,047	—
有価証券評価損益(△は益)	—	6,194
新株発行費	—	4,642
投資有価証券売却損益(△は益)	—	1,087
投資有価証券評価損益(△は益)	—	3,611
売上債権の増減額(△は増加)	9,582	△25,695
たな卸資産の増減額(△は増加)	△9,505	△79,155
仕入債務の増減額(△は減少)	△36,706	1,424
預り金の増減額(△は減少)	△1,187	△7,749
預り敷金及び保証金の増減額(△は減少)	2,612	△5,093
その他の引当金の増減額(△は減少)	5,192	5,448
その他	47,525	△63,722
小計	83,206	26,586
利息及び配当金の受取額	311	7,402
利息の支払額	△8,105	△9,945
法人税等の支払額	△12,053	△23,176
営業活動によるキャッシュ・フロー	63,359	867
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券の取得による支出	△17,956	△52,594
有価証券の売却による収入	19,435	—
有形固定資産の取得による支出	△8,528	△3,716
無形固定資産の取得による支出	△385	△5,158
投資有価証券の取得による支出	△22,880	△34,680
投資有価証券の売却による収入	2,491	15,659
貸付けによる支出	—	△167,900
貸付金の回収による収入	731	33,328
定期預金の預入による支出	△100,500	△3,000
定期預金の払戻による収入	60,000	—
関係会社株式の取得による支出	—	△69,130
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△757,388	—
その他	289	△136
投資活動によるキャッシュ・フロー	△824,691	△287,329

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額 (△は減少)	△54,900	—
長期借入れによる収入	630,000	80,000
長期借入金の返済による支出	△38,021	△67,592
自己株式の取得による支出	△17	△44
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	—	△24,000
新株予約権の発行による支出	—	△4,642
新株予約権の行使による株式の発行による収入	11,900	—
その他	△530	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	548,431	△16,278
現金及び現金同等物に係る換算差額	△170	△383
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△213,071	△303,123
現金及び現金同等物の期首残高	1,173,824	1,283,481
現金及び現金同等物の四半期末残高	960,752	980,357

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	I T関連 事業	企業再生 再編事業	不動産賃貸 管理事業	食品関連 事業	ホテル関連 事業			
売上高								
外部顧客への 売上高	93,173	200	884,020	77,970	564,603	1,619,967	—	1,619,967
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	59	—	59	△59	—
計	93,173	200	884,020	78,030	564,603	1,620,027	△59	1,619,967
セグメント利益 又は損失(△)	△10,314	70	41,560	△489	68,401	99,227	△77,849	21,377

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△77,849千円は、主に管理部門にかかる人件費及び経費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「ホテル関連事業」セグメントにおいて、株式会社倉敷ロイヤルアートホテルを連結子会社化いたしました。当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間においては160,413千円であります。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	I T関連 事業	企業再生 再編事業	不動産賃貸 管理事業	食品関連 事業	ホテル関連 事業			
売上高								
外部顧客への 売上高	137,120	—	1,331,729	77,669	806,920	2,353,440	—	2,353,440
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	38	16	54	△54	—
計	137,120	—	1,331,729	77,707	806,937	2,353,494	△54	2,353,440
セグメント利益 又は損失(△)	△6,451	△154	92,517	596	145,577	232,085	△88,456	143,629

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△88,456千円は、主に管理部門にかかる人件費及び経費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## (重要な後発事象)

## 新株予約権（有償ストック・オプション）の発行

当社は、平成27年9月18日開催の当社取締役会において、会社法第236条、第238条及び第240条の規定に基づき、当社の取締役、監査役及び従業員に対して新株予約権を発行することを決議し、平成27年10月5日に払込が完了しております。

その概要は次のとおりであります。

決議年月日	平成27年9月18日
新株予約権の数（個）	4,450
新株予約権のうち自己新株予約権の数（個）	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数（株）	4,450,000（注）1
新株予約権の行使時の払込金額（円）	67（注）2
新株予約権の行使期間	自 平成28年7月1日 至 平成35年10月4日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額（円）	発行価格 67（注）3 資本組入額 33.5（注）3
新株予約権の行使の条件	（注）4
新株予約権の譲渡に関する事項	当社取締役会の承認を要するものとする。
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	（注）5

## (注) 1. 新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数

本新株予約権1個あたりの目的である株式の数（以下「付与株式数」という。）は、当社普通株式1,000株とする。

なお、付与株式数は、本新株予約権の割当日後、当社が株式分割（当社普通株式の株式無償割当を含む。以下同じ。）または株式併合を行う場合、次の算式により調整する。但し、かかる調整は、本新株予約権のうち、当該時点で権利行使または消却されていない本新株予約権の目的である株式の数についてのみ行い、調整の結果生じる1株未満の端数は切り捨てる。

調整後付与株式数＝調整前付与株式数×分割（または併合）の比率

また、上記のほか、本新株予約権の割当日後、本新株予約権の目的である株式の数の調整を必要とするやむを得ない事由が生じたときには、当社は合理的な範囲で付与株式数を適切に調整することができる。

なお、上記の結果生じる1株未満の端数は切り捨てる。

## (注) 2. 行使価額の調整

当社が株式分割または株式併合を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整の結果生じる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割（または併合）の比率}}$$

また、本新株予約権の割当日後、当社が当社普通株式につき時価を下回る価額で新株の発行または自己株式の処分を行う場合（新株予約権の行使に基づく新株の発行及び自己株式の処分並びに株式交換による自己株式の移転の場合を除く。）は、次の算式により行使価額を調整し、調整の結果生じる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株あたり払込金額}}{\text{新規発行前の1株あたりの時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

なお、上記算式に使用する「既発行株式数」とは、当社普通株式にかかる発行済株式総数から当社普通株式にかかる自己株式数を控除した数とし、また、当社普通株式にかかる自己株式の処分を行う場合には、「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替えるものとする。

さらに、上記のほか、本新株予約権の割当日後、当社が他社と合併する場合、会社分割を行う場合、その他これらの場合に準じて行使価額の調整を必要とする場合には、当社は、合理的な範囲で適切に行使価額の調整を行うことができるものとする。

(注) 3. 新株予約権の行使により株式を発行する場合の当該株式の発行価格のうちの資本組入額

- ①本新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とする。計算の結果1円未満の端数が生じたときは、その端数を切り上げるものとする。
- ②本新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本準備金の額は、上記①記載の資本金等増加限度額から、上記①に定める増加する資本金の額を減じた額とする。

(注) 4. 新株予約権の行使の条件

- ①本新株予約権の割り当てを受けた者（以下「新株予約権者」という。）は、当社が掲げる業績目標に準じて設定された営業利益について、下記(a)から(c)の条件を達成した場合にのみ、新株予約権者に割り当てられた本新株予約権のうち、それぞれ定められた割合の個数を行使期間において行使することができる。また、営業利益の判定においては、当社の平成28年3月期から平成35年3月期の有価証券報告書に記載される連結損益計算書の数値を参照するものとし、適用される会計基準の変更等により参照すべき営業利益の概念に重要な変更があった場合には、当社は合理的な範囲内において、別途参照すべき適正な指標を取締役に定めて定めるものとする。なお、行使可能な新株予約権の数に1個未満の端数が生じる場合は、これを切り捨てた数とする。
  - (a) 下記②の強制行使条件発動時を除き、営業利益が1.3億円を超過した場合  
行使可能割合 30%
  - (b) 下記②の強制行使条件発動時を除き、営業利益が1.5億円を超過した場合  
行使可能割合 60%
  - (c) 下記②の強制行使条件発動時を除き、営業利益が2.0億円を超過した場合  
行使可能割合 100%
- ②割当日から行使期間の満了日に至るまでの間に当社が上場する金融商品取引所における当社普通株式の普通取引の当日を含む直近5取引日の終値（気配表示を含む。）の平均値（終値のない日数を除く。但し、（注）2に準じて取締役会により適切に調節されるものとする。）が一度でもその時点の行使価額の30%（但し、（注）2に準じて取締役会により適切に調節されるものとする。）を下回った場合、新株予約権者は残存するすべての本新株予約権を行使価額（但し、（注）2に準じて取締役会により適切に調節されるものとする。）で行使期間の満了日までに権利行使しなければならないものとする。但し、次に掲げる場合に該当するときはこの限りではない。
  - (a) 当社の開示情報に重大な虚偽が含まれることが判明した場合。
  - (b) 当社が法令や当社が上場する金融商品取引所の規則に従って開示すべき重要な事実を適正に開示していなかったことが判明した場合。
  - (c) 当社が上場廃止となったり、倒産したり、その他本新株予約権発行日において前提とされていた事情に大きな変更が生じた場合。
  - (d) その他、当社が新株予約権者の信頼を害すると客観的に認められる行為が生じた場合。
- ③本新株予約権の行使によって、当社の発行済株式総数が当該時点における授權株式総数を超過することとなる場合は、当該本新株予約権の行使を行うことはできない。
- ④各本新株予約権の一部行使はできない。
- ⑤新株予約権者の相続人による本新株予約権の行使は認めないものとする。

(注) 5. 組織再編行為の際の新株予約権の取扱い

当社が吸収合併消滅会社となる吸収合併、新設合併消滅会社となる新設合併、吸収分割会社となる吸収分割、新設分割会社となる新設分割、株式交換完全子会社となる株式交換、または株式移転完全子会社となる株式移転（以下「組織再編行為」と総称する。）を行う場合は、当該組織再編行為の効力発生日の直前において残存する本新株予約権に代わり、それぞれ吸収合併存続会社、新設合併設立会社、吸収分割承継会社、新設分割設立会社、株式交換完全親会社または株式移転設立完全親会社（以下「再編対象会社」と総称する。）は以下の条件に基づき本新株予約権にかかる新株予約権者に新たに新株予約権を交付するものとする。

①交付する再編対象会社の新株予約権の数

新株予約権者が有する本新株予約権の数をもとに、組織再編行為の条件等を勘案して合理的に調整する。調整後の1個未満の端数は切り捨てる。

②新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類

再編対象会社の同種の株式

③新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数の算定方法

組織再編行為の条件等を勘案して合理的に調整する。調整後の1株未満の端数は切り上げる。

④新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

組織再編行為の条件等を勘案して合理的に調整する。調整後の1円未満の端数は切り上げる。

⑤新株予約権にかかる行使期間、当該新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金、再編対象会社による当該新株予約権の取得事由、組織再編行為の場合の新株予約権の交付、新株予約権証券及び行使の条件

組織再編行為に際して決定する。

⑥新株予約権の譲渡による取得の制限

新たに交付される新株予約権の譲渡による取得については、再編対象会社の取締役会の承認を要する。

⑦その他の条件については、再編対象会社の条件に準じて決定する。